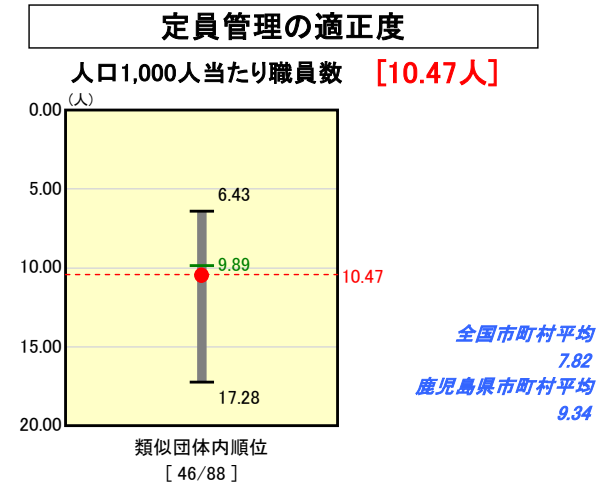
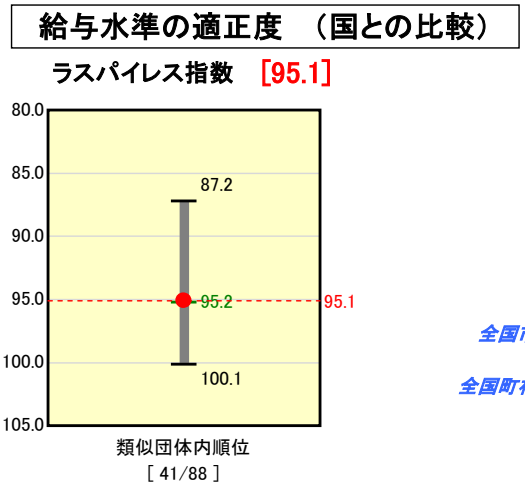
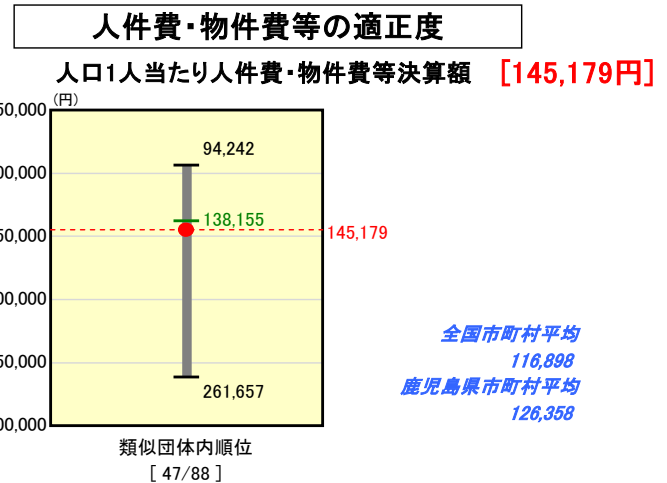
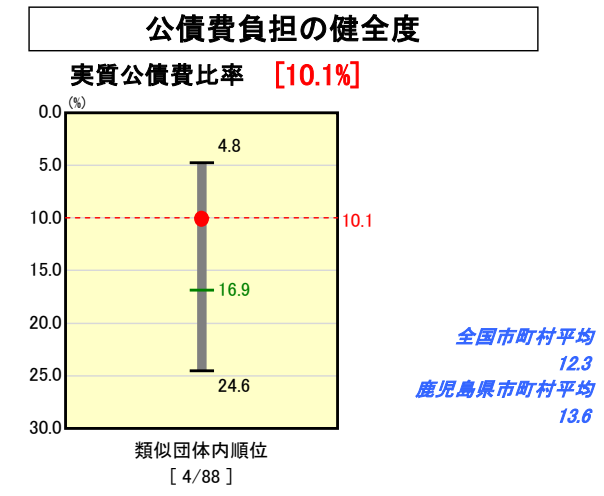
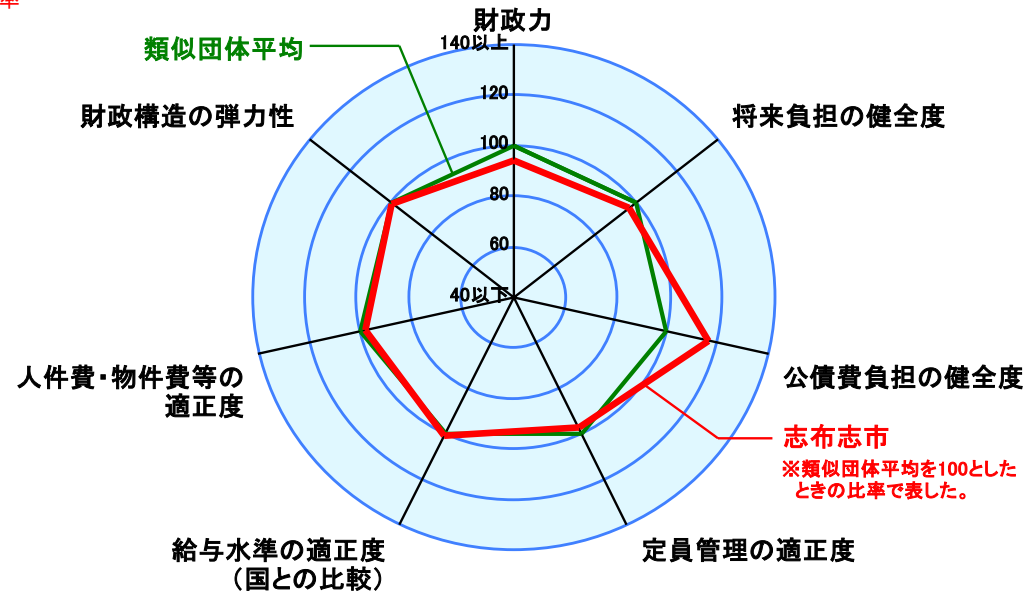
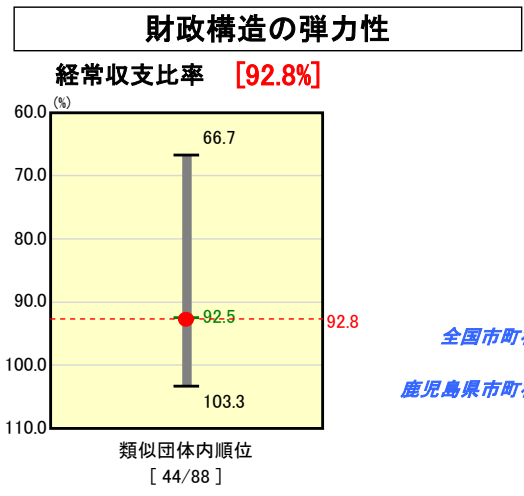
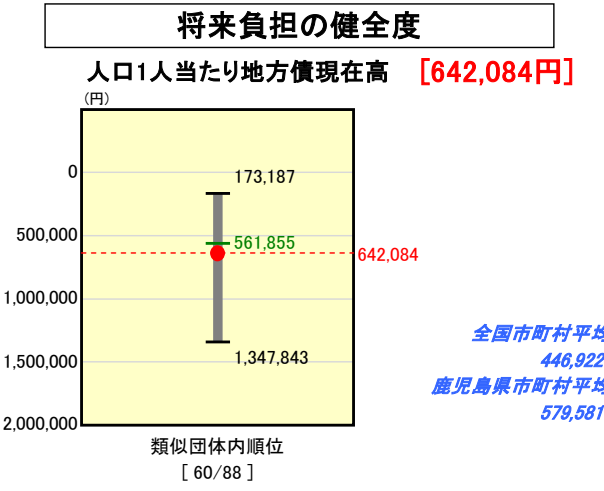
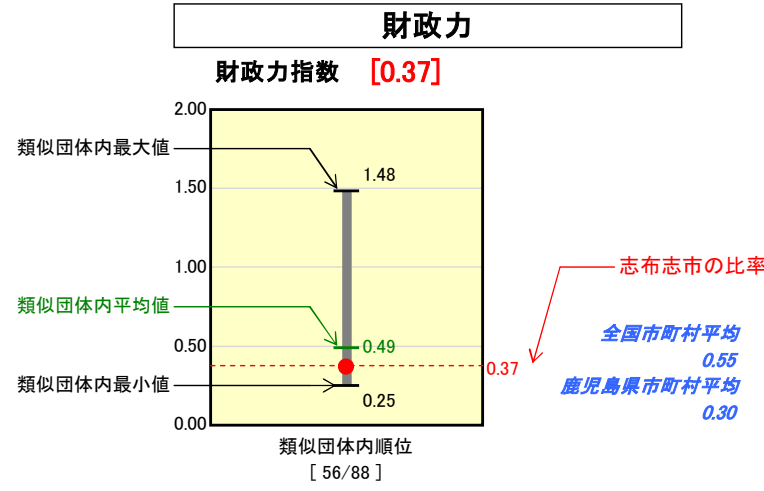


市町村財政比較分析表(平成19年度普通会計決算)

鹿児島県 志布志市

人口	34,756 人(H20.3.31現在)
面積	289.93 km ²
歳入総額	18,333,033 千円
歳出総額	17,967,796 千円
実質収支	359,236 千円



※類似団体とは、人口および産業構造等により全国の市町村を35のグループに分類した結果、当該団体と同じグループに属する団体を言う。
※平成20年4月1日以降の市町村合併により消滅した団体で実質公債費比率を算定していない団体については、グラフを表記せず、レーダーチャートを破線としている。
※ラスパイレズ指数及び人口1,000人当たり職員数については、平成19年地方公務員給与実態調査に基づくものである。なお、平成19年度中に市町村合併を行った団体については、当該項目に係るデータのグラフを表記せず、レーダーチャートを破線としている。

※人件費、物件費及び維持補修費の合計である。ただし人件費には事業費支弁人件費を含み、退職金は含まない。

分析欄

- 財政力指数: 人口の減少と高齢化率が30%を超えたことに加え、類似団体と比較しても税収が少なく財政基盤が弱いことから、類似団体平均を下回っている。集中改革プランを着実に実施し、市税等徴収率の向上や新たな歳入の創出等により自主財源の確保に努め、事務事業の見直しや歳出の抑制等に取り組み、財政の健全化を図る。
- 経常収支比率: 経常一般財源である市税等自主財源が乏しく依存財源の比率が高いため、経常経費の削減に努めているものの地方交付税や税交付金等の減に伴い、依然として類似団体平均を上回っている。定員適正化計画に基づく職員数の削減や民間委託等の推進など集中改革プラン及び事務事業評価等を踏まえ、より一層の経常経費削減を図る。
- ラスパイレズ指数: 合併(H18.1)と同時に特殊勤務手当を見直し、18年度の給与構造改革により初任給短縮、高齢層職員の昇給及び最高枠外の昇給を是正したことにより、類似団体平均水準となった。今後も国や近隣自治体の状況を踏まえ、各種手当等検証が必要な見直しをするなど住民に理解される給与制度の運用及び給与水準の適正化を図る。
- 実質公債費比率: 単年度では前年度より上昇しているものの類似団体平均を大きく下回っている。振興計画及び過疎計画等に基づく計画的な事業実施による起債の運用に努め、交付税算入率の高い起債を活用するなど財政の健全化を図る。
- 人口1人当たり地方債残高: 地方債発行の抑制により地方債残高は年々減少しているものの類似団体平均を上回っている。20~21年度に学校給食センター建設事業や国営かんがい排水事業償還等を予定しており新規の地方債発行額(約20億円)が見込まれる。今後他事業における地方債発行の抑制を図り、類似団体平均水準となるよう努める。
- 人口1,000人当たりの職員数: 退職者の不補充や新規採用の抑制に努めているが、類似団体平均を上回っている。定員適正化計画(H18~22の5年間で50人削減)に基づき、類似団体平均水準となるよう努める。
- 人口1人当たり人件費・物件費等決算額: 数値自体は年々減少しているものの類似団体平均を上回っている。今後、定員適正化計画に基づく職員数の削減と民間委託等を推進しコスト低減を図り、経常経費の削減に努める。